



足立区

第52回

足立区政に関する世論調査

2023(令和5)年8月実施

定住性／大震災などの災害への備え／洪水対策／区の情報発信のあり方／
健康／スポーツ・読書／ビューティフル・ウィンドウズ運動／環境・地域活動／
「孤立ゼロプロジェクト」など／「協働・協創」・「SDGs」／区での取り組み

足立区 政策経営部 区政情報課

令和6年3月発行

はじめに

無作為に抽出した18歳以上の区民の皆様3千人を対象に、令和5年8月に実施した「第52回足立区政に関する世論調査」の結果がまとまりました。

設問数が128問と多く、回答に時間を要するため、大変申し訳なく思いますが、区民の皆様が、お住まいの地域についてどのようにお感じになられ、何を望んでいらっしゃるのか、また、区の施策がどの程度浸透しているか等を確認するために欠かせない調査です。今回は1,555人（回収率51.8%）の方からご回答をいただきました。ご協力を賜りました皆様に、改めて厚く御礼を申し上げます。

この原稿を書いている3月1日現在、能登半島地震発災から丸2ヶ月を経過しましたが、被災地ではいまだ約1万9千戸で断水が解消せず、仮設住宅の建設も道半ばの状況です。

令和4年5月に東京都が10年ぶりに見直した首都直下地震の被害想定によると、当区は「全壊棟数」「死者数」「負傷者数」ともに23区ワーストという大変厳しい結果を突き付けられました。にもかかわらず、今回の世論調査の結果では、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」方の割合はわずか22.9%にとどまっています。この数字をどこまで底上げできるか、令和6年度の最重要課題と位置付け注力してまいります。

安心と活力。この二つが足立区の区政運営のキーワードです。世論調査の結果をしっかりと受け止め、区民の皆様のお困りごとに寄り添い、生活を支え、活力あるまちづくりを目指して一步一步着実に進んでまいります。

令和6年3月

足立区長 近藤やよい

目 次

第 1 章 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 調査地域	4
5 調査方法	5
6 回収結果	5
7 報告書の見方	7
8 標本構成	10
第 2 章 調査結果の要約	15
1 定住性	17
2 大震災などの災害への備え	18
3 洪水対策	20
4 区の情報発信のあり方	21
5 健康	22
6 スポーツ・読書	24
7 ビューティフル・ウィンドウズ運動	25
8 環境・地域活動	26
9 「孤立ゼロプロジェクト」など	28
10 「協働・協創」・「SDGs」	30
11 区の取り組み	31
第 3 章 調査結果の分析	39
1 定住性	41
(1) 居住地域の評価	43
(2) 地域の暮らしやすさ	66
(3) 特に暮らしにくいと感じること	72
(4) 定住意向	77
2 大震災などの災害への備え	85
(1) 備蓄や防災用具などの用意	87
(2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容	91
(3) 備蓄量	96
(4) 家具類の転倒・落下・移動防止対策	105
(5) 対策をしていない理由	108
(6) 地域の 3 種の避難場所とその意味の認知	111
(7) 大規模災害時の避難生活場所	119
3 洪水対策	121

(1)	「足立区洪水・内水・高潮ハザードマップ」の認知	123
(2)	河川はん濫時の避難場所の事前決定状況	127
(3)	事前に決めている河川はん濫時の避難場所	130
(4)	河川はん濫時の避難場所を決めていない理由	133
4	区の情報発信のあり方	137
(1)	区の情報の入手手段	139
(2)	重要と考える区の情報	145
(3)	必要な時に必要とする区の情報入手状況	149
(4)	区の情報得られない理由	151
(5)	区の情報得られない理由の詳細	153
5	健康	155
(1)	区のキャッチフレーズの認知状況	157
(2)	野菜から食べ始めることの実践状況	159
(3)	1日野菜350g以上の摂取	161
(4)	自身の健康状態について	163
(5)	体調や習慣	165
(6)	安心して受診できる医療機関の有無	168
(7)	健康維持のために実行している、心がけているもの	170
(8)	がん検診の受診状況と受けたがん検診の種類	172
(9)	かかりつけ歯科医院の有無と治療のほかに受けている内容	174
(10)	感染症予防としての手洗いの実践状況	176
(11)	「ゲートキーパー」という言葉の認知状況	178
6	スポーツ・読書	181
(1)	日常的な運動・スポーツの実施状況	183
(2)	継続的に実施している運動・スポーツ	185
(3)	運動・スポーツを最も多く行っている場所	189
(4)	運動・スポーツを行うためのきっかけ	191
(5)	過去1年間に関わった運動・スポーツを支える活動	194
(6)	運動・スポーツを支える活動をしなかった理由	195
(7)	区のスポーツ施設における高齢者免除制度に関する意識	196
(8)	読書に関わる行動状況	198
(9)	読書に関わる行動をできなかった・しなかった理由	201
7	ビューティフル・ウィンドウズ運動	203
(1)	「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の認知状況	205
(2)	参加している・参加したい「ビューティフル・ウィンドウズ運動」の取り組み	209
(3)	居住地域の治安状況	214
(4)	居住地域の治安が良いと感じる点	219
(5)	居住地域の治安が悪いと感じる点	222
(6)	治安対策として区に力を入れてほしいこと	226

8	環境・地域活動	231
	(1) 環境のために心がけていること	233
	(2) 環境への影響を考えた日頃からの行動の有無	239
	(3) 町会・自治会の加入や活動	241
	(4) 町会・自治会に加入しない理由	250
	(5) この1年間に参加した活動と引き続き、または今後参加したい活動	252
9	「孤立ゼロプロジェクト」など	261
	(1) 「孤立ゼロプロジェクト」の認知状況	263
	(2) 地域包括支援センター、及び業務内容の認知	266
	(3) 高齢者の孤立防止や見守り活動への協力意向	270
	(4) 「フレイル」にならないための活動の認知と実践状況	273
	(5) 「たんぱく質を多く含む食品」の毎食の摂取状況	276
	(6) 現在の就労状況と、就業者における仕事と仕事以外の生活の調和	278
	(7) 「身体的暴力以外のDV」「LGBT」の認知状況	281
10	「協働・協創」・「SDGs」	285
	(1) 「協創」の認知	287
	(2) 協働・協創の実践	289
	(3) 区役所・区民・団体の協働や協創による事業推進の評価	291
	(4) SDGsの認知状況	293
	(5) SDGsの関心状況	295
11	区の取り組み	297
	(1) 区に対する気持ち	299
	(2) 区に対する気持ち（愛着、誇り、人に勧める）の具体的な内容（自由回答）	329
	(3) 区を良いまちにするための行動	339
	(4) 区の取り組みで満足している分野	343
	(5) 区の取り組みで不満の分野	348
	(6) 区の取り組み（分野）に対する評価（【満足割合】－【不満割合】）	352
	(7) 区政に対する満足度	368
	(8) 今後特に尽力してほしい取り組み分野	371
	(9) 区政への区民意見の反映度	375
	(10) 区政についてのご意見、ご要望（自由回答）	378
	(11) 本調査内容の区民ニーズ・意識把握に対する有効度	386

第4章	使用した調査票	389
------------	----------------	------------

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、区政の各分野について区民の生活実態、意識や意向、意見や要望などを把握し、これを今後の区政運営に反映させることを目的としたものである。

2 調査の内容

今回の調査では11項目について調査した。

- (1) 定住性
- (2) 大震災などの災害への備え
- (3) 洪水対策
- (4) 区の情報発信のあり方
- (5) 健康
- (6) スポーツ・読書
- (7) ビューティフル・ウィンドウズ運動
- (8) 環境・地域活動
- (9) 「孤立ゼロプロジェクト」など
- (10) 「協働・協創」・「SDGs」
- (11) 区の取り組み

3 調査の設計

- | | |
|--------------|----------------------|
| (1) 調査地域 | 足立区全域 |
| (2) 調査対象 | 足立区在住の満18歳以上の男女個人 |
| (3) 標本数 | 3,000サンプル（人） |
| (4) 調査対象者の抽出 | 足立区住民基本台帳より単純無作為抽出法 |
| (5) 調査期間 | 令和5年8月18日（金）～9月8日（金） |
| (6) 調査機関 | （株）サーベイリサーチセンター |

4 調査地域

図1 地域区分図

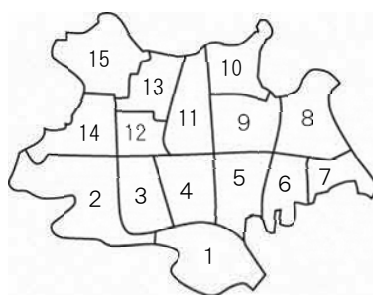


表1 調査地域一町丁目対応表

地域名	地 区 町 丁 目 名
第1地域	千住関屋町、千住曙町、千住東一丁目～二丁目、千住旭町、柳原一丁目～二丁目、日ノ出町、千住橋戸町、千住河原町、千住仲町、千住緑町一丁目～三丁目、千住宮元町、千住中居町、千住龍田町、千住桜木一丁目～二丁目、千住一丁目～五丁目、千住大川町、千住寿町、千住元町、千住柳町
第2地域	小台一丁目～二丁目、宮城一丁目～二丁目、新田一丁目～三丁目、鹿浜一丁目、堀之内一丁目～二丁目、椿一丁目、江北一丁目～五丁目、扇二丁目
第3地域	西新井本町一丁目～五丁目、扇一丁目、扇三丁目、興野一丁目～二丁目、本木一丁目～二丁目、本木東町、本木西町、本木南町、本木北町
第4地域	西新井栄町一丁目～三丁目、関原一丁目～三丁目、梅田一丁目～八丁目、梅島一丁目～三丁目
第5地域	足立一丁目～四丁目、西綾瀬一丁目～四丁目、中央本町一丁目～五丁目、弘道一丁目～二丁目、青井一丁目～六丁目
第6地域	加平一丁目、綾瀬一丁目～七丁目、東綾瀬一丁目～三丁目、谷中一丁目～二丁目
第7地域	東和一丁目～五丁目、中川一丁目～五丁目
第8地域	大谷田一丁目～五丁目、佐野一丁目～二丁目、辰沼一丁目～二丁目、六木一丁目～四丁目、神明一丁目～三丁目、神明南一丁目～二丁目、北加平町、加平二丁目～三丁目、谷中三丁目～五丁目
第9地域	西加平一丁目～二丁目、六町一丁目～四丁目、一ツ家一丁目～四丁目、保塚町、東六月町、平野一丁目～三丁目、保木間一丁目～二丁目、南花畑一丁目～三丁目、東保木間一丁目～二丁目
第10地域	花畑一丁目～八丁目、南花畑四丁目～五丁目、保木間三丁目～五丁目
第11地域	西保木間一丁目～四丁目、竹の塚一丁目～七丁目、六月一丁目～三丁目、島根一丁目～四丁目、栗原一丁目～二丁目
第12地域	西新井一丁目～七丁目、栗原三丁目～四丁目
第13地域	西伊興町、西伊興一丁目～四丁目、伊興一丁目～五丁目、西竹の塚一丁目～二丁目、東伊興一丁目～四丁目、伊興本町一丁目～二丁目
第14地域	谷在家一丁目～三丁目、鹿浜二丁目～八丁目、椿二丁目、江北六丁目～七丁目、加賀一丁目～二丁目、皿沼一丁目～三丁目
第15地域	舎人一丁目～六丁目、入谷一丁目～九丁目、古千谷一丁目～二丁目、古千谷本町一丁目～四丁目、入谷町、舎人町、舎人公園

5 調査方法

- (1) 調査方法 郵送配付、郵送またはインターネットによる回答
(依頼状、お礼状ともに1回)
- (2) 調査票 第4章の調査票を使用

6 回収結果

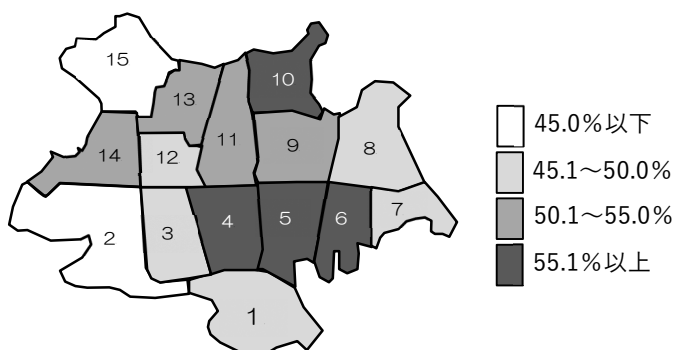
- (1) 標本数 3,000人
- (2) 有効回収数 1,555票 有効回収率 51.8%
- 回答方法別
- (郵送 1,113票 構成比 71.6%)
- (オンライン 442票 構成比 28.4%)
- (3) 回収不能数 1,445票 回収不能率 48.2%
- (4) 地域別回収結果

表2 地域別回収結果

地域名	18歳以上人口	構成比	標本数	有効回収数	有効回収率
区全体	601,427人	100.0%	3,000人	1,555票	51.8%
第1地域	67,848	11.3	336	167	49.7
第2地域	42,326	7.0	212	92	43.4
第3地域	36,047	6.0	180	88	48.9
第4地域	51,853	8.6	259	148	57.1
第5地域	54,100	9.0	271	155	57.2
第6地域	39,926	6.6	199	111	55.8
第7地域	29,254	4.9	147	71	48.3
第8地域	48,135	8.0	240	117	48.8
第9地域	40,789	6.8	204	111	54.4
第10地域	27,806	4.6	139	81	58.3
第11地域	48,922	8.1	245	126	51.4
第12地域	25,073	4.2	125	62	49.6
第13地域	29,876	5.0	150	76	50.7
第14地域	31,842	5.3	159	86	54.1
第15地域	27,630	4.6	134	58	43.3

(18歳以上人口は令和5年7月1日現在)
※有効回収数のうち6票は地域不明

図2 地域別有効回収率分布図



(5) 性別・年代別回収結果

表3 性別・年代別回収結果

性・年代	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	3,000人	1,555票	51.8%
男性（計）	1,498	660	44.1
18～29歳	259	59	22.8
30 代	224	66	29.5
40 代	274	114	41.6
50 代	292	142	48.6
60 代	163	94	57.7
70歳以上	286	185	64.7
女性（計）	1,502	888	59.2
18～29歳	255	101	39.6
30 代	211	113	53.6
40 代	213	124	58.2
50 代	254	175	68.9
60 代	173	120	69.4
70歳以上	396	255	64.4
どちらでもない	-	0	-
答えたくない		5	
無回答	-	2	-

(注) この表での『どちらでもない』は、「性」の回答において、令和3年度より選択肢の表現を変更した「どちらでもない」を選んだサンプルの数を掲載している。

(注) この表での『答えたくない』は、「性」の回答において、今回より選択肢の表現を変更した「答えたくない」を選んだサンプルの数を掲載している。

(注) この表での『無回答』は、「性」、「年代」の両方の回答がなかった方のサンプル数を掲載している。

7 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%) はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入した。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがある。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における【**そう思う(計)**】のように、「**そう思う**」と「**どちらかといえばそう思う**」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用しているため、グラフ又は数値表に記載された単純集計値(一選択肢の値)の合計とは異なる場合がある。
- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計数字が100%を超える場合がある。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行った。
- (6) 性・年代別などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがある。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、原則的に参考値としての掲載としている。
- (8) 標本誤差

標本誤差とは、今回のように全体(母集団)の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあるが、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、誤差を数学的に計算することが可能である。

今回の調査の回答結果から、母集団(足立区在住の満18歳以上の男女)全体の比率を推定するため、無作為抽出法の場合の標本誤差の〈算出式〉と〈早見表〉を示した。

標本誤差および〈早見表〉は、以下のように使用する。

例えば、問3の「あなたは、足立区に今後も住み続けたいと思いますか」という質問に対して、「ずっと住み続けたい」と答えた人は、1,555人のうち35.3%であった。

回答者数が1,555人、回答の比率が50%前後のときの標本誤差は、〈早見表〉では±2.54%であるから、「ずっと住み続けたい」と考えている人は、足立区在住の満18歳以上の男女全体(母集団)の32.8%から37.8%であると推定できる。

〈標本誤差算出式〉

$$b = 2 \sqrt{\frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差

N = 母集団数 (足立区の18歳以上人口)

n = 比率算出の基数 (回答者数)

P = 回答の比率 (0 ≤ P ≤ 1)

〈 早見表 〉

回答の比率 (P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,555	±1.52%	±2.03%	±2.32%	±2.48%	±2.54%
1,400	±1.60%	±2.14%	±2.45%	±2.62%	±2.67%
1,200	±1.73%	±2.31%	±2.65%	±2.83%	±2.89%
1,000	±1.90%	±2.53%	±2.90%	±3.10%	±3.16%
800	±2.12%	±2.83%	±3.24%	±3.46%	±3.54%
600	±2.45%	±3.27%	±3.74%	±4.00%	±4.08%
400	±3.00%	±4.00%	±4.58%	±4.90%	±5.00%
200	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
100	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%

〈 早見表 - 性・年代別 〉

回答の比率 (P) 基数(n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	
全体	1,555	±1.52%	±2.03%	±2.32%	±2.48%	±2.54%
男性(計)	660	±2.34%	±3.11%	±3.57%	±3.81%	±3.89%
18～29歳	59	±7.81%	±10.42%	±11.93%	±12.76%	±13.02%
30代	66	±7.39%	±9.85%	±11.28%	±12.06%	±12.31%
40代	114	±5.62%	±7.49%	±8.58%	±9.18%	±9.37%
50代	142	±5.04%	±6.71%	±7.69%	±8.22%	±8.39%
60代	94	±6.19%	±8.25%	±9.45%	±10.11%	±10.31%
70歳以上	185	±4.41%	±5.88%	±6.74%	±7.20%	±7.35%
女性(計)	889	±2.01%	±2.68%	±3.07%	±3.29%	±3.35%
18～29歳	101	±5.97%	±7.96%	±9.12%	±9.75%	±9.95%
30代	113	±5.64%	±7.53%	±8.62%	±9.22%	±9.41%
40代	124	±5.39%	±7.18%	±8.23%	±8.80%	±8.98%
50代	175	±4.54%	±6.05%	±6.93%	±7.41%	±7.56%
60代	120	±5.48%	±7.30%	±8.37%	±8.94%	±9.13%
70歳以上	255	±3.76%	±5.01%	±5.74%	±6.14%	±6.26%

(注1) Nはnより非常に大きく、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$ として計算した。

(注2) 「年代」においては、「性」を回答していても「年代」を回答していない方、又はその逆に「年代」を回答していても「性」を回答していない方がいるため、各年代の数を足し上げて「性」(計)の数とは一致しない。

(9) 分類した項目の定義

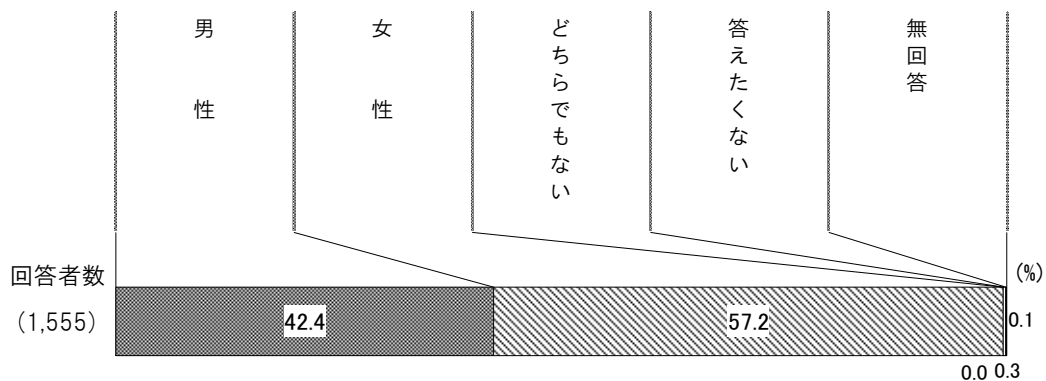
質問に対して、分類（表側）に使用した項目は以下のとおりである。

- ① 地域別…………… (15カテゴリ)
- ② 性別…………… (2カテゴリ) ※性別の「どちらともいえない」は5サンプルのみだったので表側からは割愛した
- ③ 性・年代別…………… (12カテゴリ)
- ④ ライフステージ別…………… (7カテゴリ)
 - ・ 独身期 40歳未満の独身者
 - ・ 家族形成期 40歳未満で子どものいない夫婦、または本人が64歳以下で一番上の子どもが小学校入学前の人
 - ・ 家族成長前期 本人が64歳以下で一番上の子どもが小・中学生の人
 - (家族成長小学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが小学生の人
 - (家族成長中学校期) 本人が64歳以下で一番上の子どもが中学生の人
 - ・ 家族成長後期 本人が64歳以下で一番上の子どもが高校生・大学生の人
 - ・ 家族成熟期 本人が64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
 - ・ 高齢期 本人が65歳以上の人
 - (一人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らしの人
 - (夫婦二人暮らし高齢者) 本人が65歳以上で夫婦二人暮らしの人
 - (その他の高齢者) 本人が65歳以上で一人暮らし、夫婦二人暮らし以外の人
 - ・ その他壮年期 本人が40歳～64歳で独身、または本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
 - (壮年独身者) 本人が40歳～64歳で独身
 - (壮年夫婦のみ者) 本人が40歳～64歳で子どものいない夫婦
- ⑤ エリアデザイン別①…………… (7カテゴリ)
 - ⑤-1 エリアデザイン地域内外別② (2カテゴリ)
- ⑥ 住居形態別…………… (8カテゴリ)
- ⑦ 職業別…………… (8カテゴリ)
- ⑧ 就労（就学）場所別…………… (6カテゴリ)
- ⑨ 居住年数別…………… (6カテゴリ)

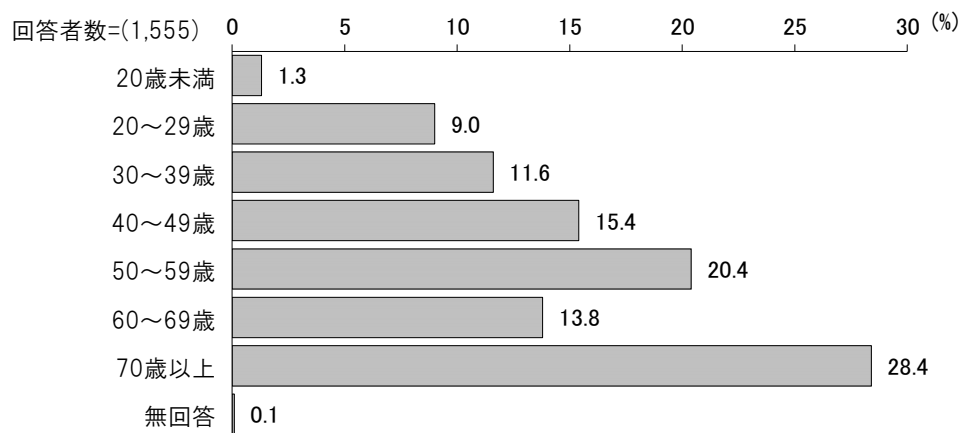
※ 本文中、表側に使用した項目の回答者数が30名未満の場合は、誤差が大きくなるため、参考値としての掲載にとどめ、分析コメントでは言及していないことがある。

8 標本構成

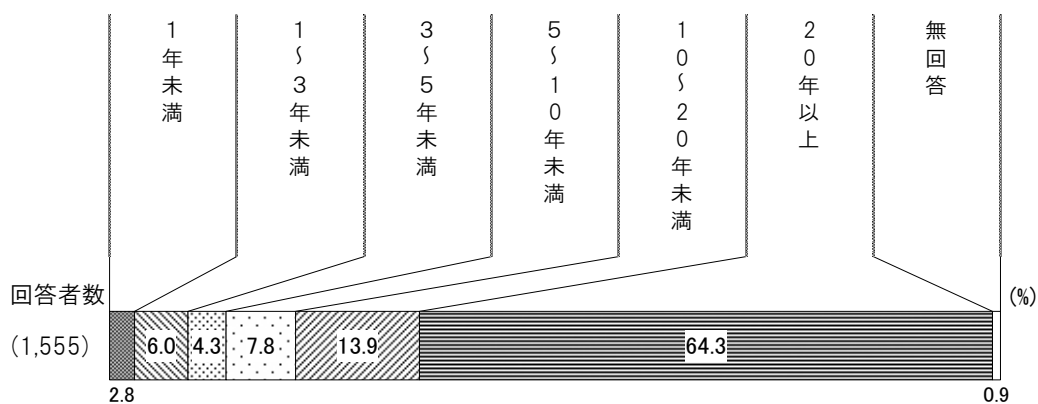
F1 性別



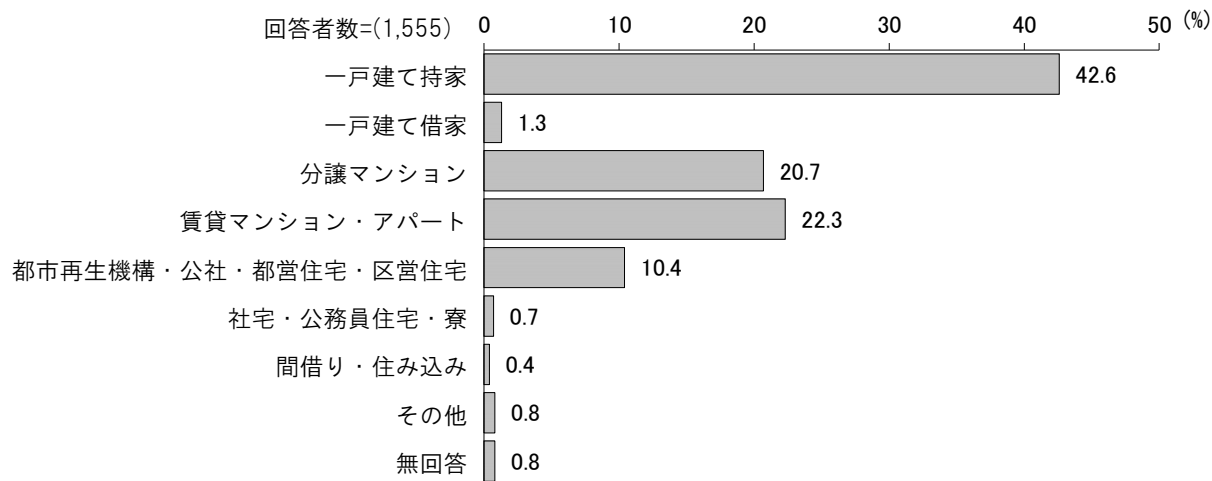
F2 年齢



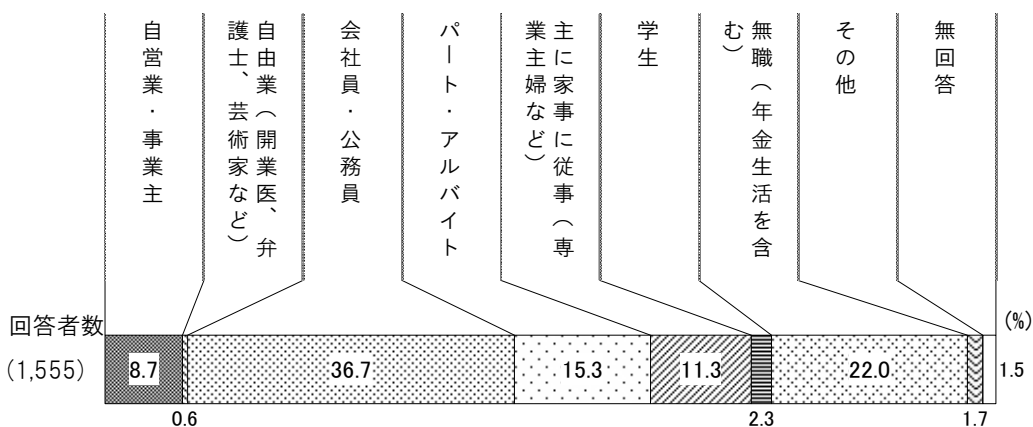
F3 居住年数



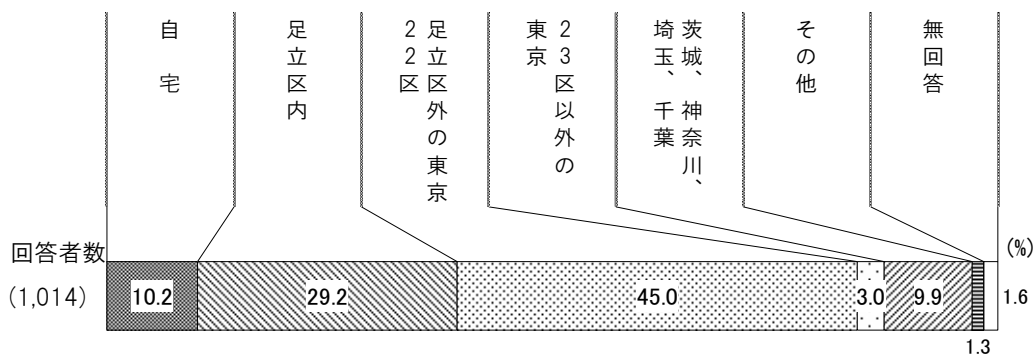
F 4 住居形態



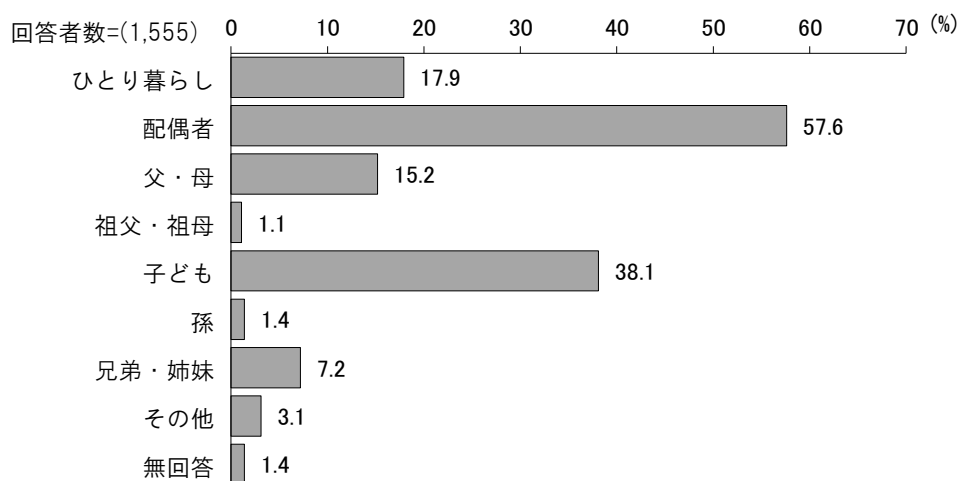
F 5 職業



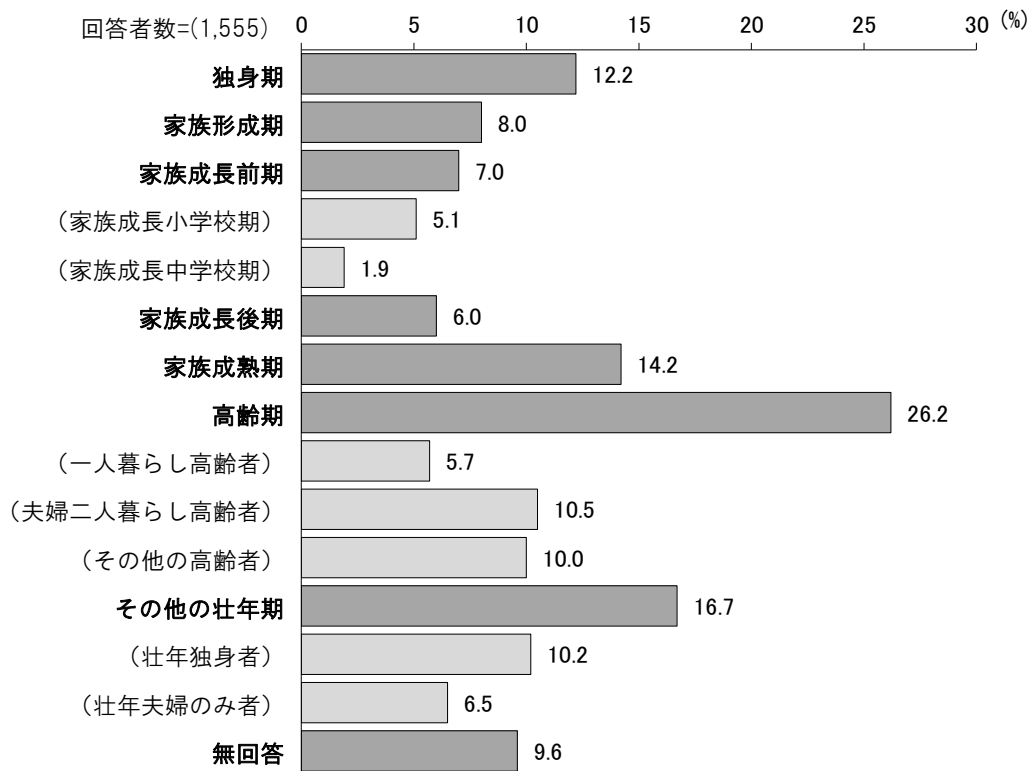
F 6 就労、就学場所【就労者、就学者ベース】



F7 同居家族（複数回答）



F8 ライフステージ



F9 エリアデザイン

